

FASB 144 非営利法人の寄附金と減損の扱いについて

平成 20 年 4 月 14 日

1 FASB 144 の概要

(1) 政府補助金の認識時期の制限

- FASB144 は、2001 年に、FASB121 を書き換える形で導入された。
- FASB144 は、FASB121 を継承して、① 長期性固定資産の帳簿価額が、資産からもたらされる割引前キャッシュフローにより回収できないと考えられる場合に評価減を認識し、② 資産の帳簿価額と公正価値の差額を減損減とすることとされている。

This Statement retains the requirements of Statement 121 to

(a) recognize an impairment loss only if the carrying amount of a longlived asset is not recoverable from its undiscounted cash flows and

(b) measure an impairment loss as the difference between the carrying amount and fair value of the asset.

(2) FASB の非営利法人への適用

- FASB144 の注 1 は下記のとおり述べており、非営利法人にもそのまま適用される。
 - ※ この基準は営利企業及び非営利法人にも適用される。営利企業と非営利法人を共通して、法人(entity)という。

1 This Statement applies to a business enterprise and a not-for-profit organization, each of which is referred to herein as an entity.

(3) 一般的な FASB144 の非営利法人への適用についての受け止め

- FASB144 の公共セクターへの適用については、次のように受け止められている模様。

費用を基本的にカバーする事業型の活動 = 適当

事業型であるが補助金を受けているもの = やや難あり

政府活動 = 不適當

カリフォルニア州市町村財政担当職員協会ホームページより

2 FASB 144 の背景説明における非営利法人等への適用に関する議論等と対応

(1) FASB の背景説明で行われている議論又は公開草案へのコメント

- FASB144 の非営利法人についての適用について議論については、FASB144 の「背景説明および結論の根拠」(Background Information and Basis for Conclusions)の中で、FASB121 の 99 及び 100 を引用して、紹介されている。

① 非営利法人のキャッシュフロー計算上の寄附の扱い

- 資産の維持経費の一定部分を寄附に依存している非営利法人の場合は、資産の簿価と比較するキャッシュフローとして何が適当かを決定する上で、こうした寄附を考慮に入れる必要があるとも考えられる。

99. Not-for-profit organizations that rely in part on contributions to maintain their assets may need to consider those contributions in determining the appropriate cash flows to compare with the carrying amount of an asset.

② 寄附等のキャッシュフローの特定の資産グループへのあてはめの困難性

- 公開草案へのコメントの中には、第 6 項の減損認識の基準は、特定の資産又は特定の資産のグループに将来の期待されるキャッシュフローをあてはめることが不可能ではないにしても困難であり、問題がある、とするものがあつた。

99 ...Some respondents to the Exposure Draft stated that the recognition criteria in paragraph 6 would be problematic for many not-for-profit organizations because it may be difficult, if not impossible, for them to identify expected future cash flows with specific assets or asset groupings.

③ 減損の兆候、測定における寄附等のキャッシュフローとしての認識

- 公開草案のコメントの中には、将来キャッシュフローの特定の資産グループへの認識は可能であるが、将来の無条件寄附が全く考慮されない場合、将来のキャッシュフローは極めて少額となるか、一定程度ある場合においても簿価を維持することができる額よりも小さくなると見込まれるとするものがある。例えば、美術館を運営する経費は入場料を下回るが、美術館はそのキャッシュフローの不足を無条件補助金で補てんすることができるかもしれないという。

99 ...In other cases, expected future cash flows can be identified with asset groups. However, if future unrestricted contributions to the organization as a whole are not considered, the sum of the expected future cash flows may be negative, or positive but less than the carrying amount of the asset. For example, the costs of administering a museum may exceed the admission fees charged, but the organization may fund the cash flow deficit with unrestricted contributions.

④ 営利企業と同様の経営本部経費や本部に属する研究所経費の問題

- 公開草案のコメントの中には、営利企業と同様の問題を指摘するものもあつた。すなわ

ち、経営本部や本部研究所の施設は、下部部門の営利活動から賄われている。従って、限定された状況かもしれないが、下部部門の認識されるキャッシュフローが、他の資産グループから相当程度独立している場合でも、法人全体のキャッシュフローと認識することが考えられる。

100. Other respondents indicated that similar difficulties would be experienced by business enterprises. For example, the cost of operating assets such as corporate headquarters or centralized research facilities may be funded by revenue-producing activities at lower levels of the enterprise. Accordingly, in limited circumstances, the lowest level of identifiable cash flows that are largely independent of other asset groups may be the entity level.

(2) FASB の論点への対応

- (1)の問題点について、FASB144 の「背景説明および結論の根拠」において、次のような、対応と考え方が示されている。

① 特定の条件下での法人単位の資産債務での評価

- この基準上、既往の FASB121 と同様、審議会は限定された状況の下では、資産グループは、法人単位の資産債務グループで判断することができる。

B46. In this Statement, as in Statement 121, the Board acknowledges that in limited circumstances, an asset group will include all assets and liabilities of the entity.

- 審議会は第 6 節の規定に基づく減損テスト上、法人単位以下の下部部門で特定できるキャッシュフローがない資産については、法人単位のキャッシュフローで減損の兆候を認識すべきであるとの結論を得た。その場合、法人単位での減損テストに使われるキャッシュフローは、法人の他の特定された資産の簿価の減損テスト上簿価を維持するために必要であったキャッシュフローの額を控除すべきである。

100 ...The Board concluded that the recoverability test in paragraph 6 should be performed at the entity level if an asset does not have identifiable cash flows lower than the entity level. The cash flows used in the recoverability test should be reduced by the carrying amounts of the entity's other assets that are covered by this Statement to arrive at the cash flows expected to contribute to the recoverability of the asset being tested.

② 非営利法人における無条件寄附の考慮

- 非営利法人は、特定の資産の維持運営に必要な資源と考えられる無条件寄附を、キャッシュフローとして、算定すべきである。

100 Not-for-profit organizations should include unrestricted contributions to the organization as a whole that are a source of funds for the operation of the asset.

以上